

# Anchor

アンカー

ジニーン・ソートロン「夢と幻」

「自分の心の黙示、偽りの預言者」

バプテスマのヨハネ：対：ヘロデヤーサロメーヘロデ  
現代に何を意味する？

第7号 臨時号



## 愛する再臨信徒の兄弟姉妹方：

主にあって希望にあふれて新しい年を迎えられたことと思います。1991年！果たしてどういう年になるでしょう！激変の数年でしたが、これからますます拍車をかけて終わりをさして急ぐことでしよう。

去年はいろんな予期しないことが起こりましたね。ソ連、共産諸国の民主化、東西ドイツの統合、それにイラクの危機…。この数日全世界の目はイラクに向けられていましたが、ついに今日、17日この挨拶を書いている今、9時過ぎに、アメリカは爆撃を開始したというニュースが入ってきました。この戦争は世界にどのような影響を及ぼすのでしょうか？ 平和の国、日本に何らかの影響を及ぼすことはまちがいありません。神の僕、ホワイト夫人は、「海陸の災害、社会の不安状態、戦争の警報などが危機をはらんでいる。それらは最大の規模を持った事件が近づいていることを予告している。悪天使達は勢力を結集して、陣地を固めている。彼らは最後の大危機のために強化されつつある。まもなくこの世界に大変化が起ころうとしているが最後の運動は急速なものとなるであろう」と言っています。「しかし、すでに国民は国民に向かって王国は王国に向かって立ち上がりつつあるが、まだ大戦争はない。四方の風は、神の僕たちがそのひたいに印をおされるまではまだひきとめられているが、それがすむと、地の勢力は最後の大戦に向かって進軍するのである」とも言っています。ク奉70。このたびの戦争がどれほどの規模の戦争になるかはわかりませんが、「圧倒的な驚くべき事件」「最大の規模を持った事件」の前兆であることは確かでしょう。最後の大戦争は、各時代の戦争の真の原因に絞ってなされるもので、この地上のあらゆる悪の勢力が結集して神の戒めを擁護する民に矛先が向けられるものです。そういう意味で、印する働き、すなわち、日曜休業令が始まるまでは世界大戦争にはならないでしょう。しかし、このイラクの戦争が、世界の政治、経済、宗教連合に大きな影響を及ぼし、予想しない早さで日曜休業令、大いなる悩みに追い込むことにならないと誰が言えるでしょうか？ただし、世界各国が軍隊を派遣して、その危機環境を作り上げて、「平和の使者」と言われているローマ法王が介入して、世界政府作りのきっかけとする事は考えられないことはないでしょう。ポーランド、東欧の場合もそうであったように。

今年、又どんな予測しないことが起こるか分かりません。政治、経済、宗教界において、まさかという出来事が起こる時代です。去年11月、突然サッチャーが辞任、無名のメイジャー氏が出現しました。49才の若さの人です。日本でもリクルート問題の嵐の中から突然予期しない、海部総理が現れましたね。59才でした。去年7月、アドベンチストの世界総会でまた代議員たちを驚かせる事が起こりました。それは、どこの支部総理でもないフォーケンバーグ氏が総理に選出された事でした。これまた49才！

神様もその御業を「働き人を驚かせる、ご自分の方法で」完成なさる日が近づいています。「人々は世界に起ころうとする事を思い、恐怖と不安で気絶するであろう」ルカ21：26。しかし、「あなたはにわかにかかる恐怖を恐れることなく、悪しき者の滅びが来ても、それを恐れることがない。これは、主があなたの信頼するものであり、あなたの足を守って、わなに捕らわれさせられないからである」（シンゲン3：25、26）との御約束を感謝しましょう。

様々な教えの風が吹きまくっている時、また新しい光というものが来るとき、切り札が一枚あるとすれば、至聖所におけるキリストの「最後のあがない」です。それこそサタンが最も憎んでいる大真理で、万事がそれにかかっているからです。大下221～222をお読み下さい。

再臨信徒として互いに研究しあい、備えて神の救いを見ようと願ってアンカーを出版していますが、これまでの皆様の心からの支援を感謝し、今後も皆様のご協力をお願いします。

☞ **至聖所**におけるキリストの**最後のあがないの働き**を理解することの**重要性!**

各自は、今、神に裁かれようとしている。各自は大いなる審判者と顔を合わせなければならない。とするならば、審判が始まり、数々の書物が開かれる厳粛な時のことを、ダニエルとともに、定められた日の終わりに立って、自分達の分を受けねばならない厳粛な時のことを、たびたび瞑想することは、すべての者にとってどんなにか重要であろう。...

☞ 天の聖所は、人類のための**キリストのお働きの中心**そのものである...  
すべてのものが、これらの問題を**徹底的に**研究し、彼られのうちにある望みについて説明を求め人に答えることができるようにすることは、何よりも重要なことである。

大下222

☞ 贖罪の日の実体である今日、我々が我々の大祭司の働きを理解し、どのような義務が我々に要求されているかを知ることは、どんなにか重要であろう。

大下148

☞ **聖所と調査審判の問題は、神の民にとって**はつきりと理解されねばならない。すべての者は、自分達の**大いなる大祭司キリストの立場と働きについて、自分で知っている必要がある。**そうしなければ、この時代にあって必要な信仰を働かすことも、神が彼らのために計画しておられる立場を占めることもできなくなる。

大下222

**サタンの憎む大真理!!!**

サタンは、数えきれないほどの策略を考え出して我々の心を捕らえ、われわれが**最もよく知っていなければならない働き**そのものについて、われわれに考えさせまいとしている。大欺瞞者サタンは、贖罪の犠牲と全能の仲保者を明らかにする大真理を憎んでいる。イエスと彼の真理から人々の心をそらすことに、万事がかかっていることを、彼は知っているのである。

大下221



## ■■■■■■■■■■ 選民を惑わそうと... ■■■■■■■■■■

我々は「終わりの時」の終わりに住んでいる。預言の研究者はそれを悟るであろう。世界の激変は預言の成就である。神の民の永遠の運命を決定する「最後のテスト」という事件がまもなく起こる。生ける者のさばきが、まず神の民セブンスデー・アドベンチストから始まる時が非常に迫っている。サタンの最後の傑作が出来上がる時が迫っている。そして神もその奥義を成就せんと働こうとしておられる。神が後の雨、大いなる叫びをもって働かれる前にサタンは様々な欺瞞を演出する。選民が神の約束を受けないで、神の目的が挫折するために。

「彼（サタン）は、あるものはある方法で欺き、他のものはまた別の方法で欺く。彼はさまざまな性質の人々を陥れるために、さまざまな欺瞞を用意している。ある人々は、ある欺瞞は嫌悪しながらも、他の欺瞞は安々と受け入れる。」初文424

教会には、現状に満足して、平和だ、無事だの道を進む人と、満足しないで、自分の心の深みまで清められ、神の約束の成就を求め続ける人とがいる。サタンは、不注意と無関心のグループの前者にはそんなに関心がない。必死になって彼が働くのは、押し迫る暗黒に抵抗して上を仰ぐ者達に対してである。（初文437-440、5T472-475）

この度また、フランスに預言者といわれる人が現れた。夢と幻を通して与えられた現代のセブンスデー・アドベンチストへのメッセージが17のテープに吹き込まれて、あちらこちらに送られている。もしそれが神からの新しい光であるなら、我々は素早く受け入れる用意ができていなければならない。「御霊を消してはいけない。預言を軽んじてはならない」からである。我が教会は、過去において神が使命者を送られて、ご自分の民を覚醒して、神の約束を果たそうとなさったことがあったが、幾度も拒んだ事実を忘れてはならない。その事実を否定しているために、古代イスラエルと同じように、大きな欺瞞に陥っていることを知らなければならない。「アンカー」2号参照。しかし、同時に「すべてのものを識別して良いものを守り、あらゆる種類の悪から遠ざかりなさい」と警告されている。1テサロニケ5：19-22

熱心にも言葉と証の書を学ぶ人には、それだけサタンは巧妙な戦術をもってやってくるが、「心から真理を求めている者は、間違える必要はない。それは道の四つ角にたって、どちらに行こうかと思案しなければならないような不明瞭なものではない」RH1-27, 1885。神から来たものか、サタンから来たものかをどうして見分けるのであろうか？

「ただおきてと証とに求めよ。彼等がこの言葉によって語らなければ、彼らに光がないからである」イザヤ8：20英文

ミラー兄弟は、この問題に関して最も重要なポイントから洞察しているので、まずは彼のメッセージに耳を傾けてみよう。

# ジニーン・ソートロンの「夢と幻」

デビッド・ミラー

もし道で誰かがやってきて、自分が超自然的な源から夢と幻をうけたことを告げてきたら、あなたはその幻をどのようにテストするだろうか？もしその人が聖書の研究者で夢はイエスから来たと言え、あなたはそれを信じるだろうか？ クリスマスは当然これらの夢と幻を神の言葉、聖書に照らしてみる必要がある。

もし日曜休業令なるものがあることを告げられ、準備が出来ていなければ、みんなその準備を熱心に始めなければならないと言われたらどうだろう？ その人に、イエスは間もなく来られるので、安息日を守らなければならないと言われたら、あなたは信じるだろうか？

セブンスデー・アドベンチストの特別な真理に焦点を合わせるときに、我々はセブンスデー・アドベンチストとして幻を聖書と比較するだけでなく、預言者の書き物にも照らしてみなければならない。それでもだまされることがあるだろうか？

ほとんどのクリスマスはすでに持っているキリスト教の知識で判断すれば良いであろう。しかし、アドベンチストは全ての夢と幻を、すでに他の宗教運動に啓示された真理によってテストする必要があるばかりでなく、この時代に彼らに対して持つておいでになる神の目的を成就するように要求されている真理によってもまたテストされなければならない。我々はそれを現代の真理と呼んでいる。現代の真理とは何か？

## 現代の真理

キリストがこの地上におられた時の現代の真理は天の至聖所で何をなさっているかということではなかった。イエスはなお地上におられ、天の聖所の第一の部屋にさえお入りになっておられなかったのである。その時代の現代の真理はイエスを神から遣わされたお方として受け入れることであつた。もし人々が以前に送られた全ての真理をうけいれていると言いながら、彼らの時代のキリスト（現代の真理）を拒むなら、実際は全てを拒むことであり、さらに、以前の真理を拒むことになる。

マルチン・ルーテルの時代には、信仰による救いを理解することであり、カトリック教会によって、あるいは自分の業によって救われると信じることではなかったのである。現代の真理は、「信仰によってのみ」生きることであつた。カトリシズムがキリストを受け入れると自称していても、その時代の真理を拒むなら、彼らは、実際は、キリストを含めて全てを拒んだことになつたのである。

1844年、ウィリアム・ミラーにとっての現代の真理は、キリスト教会において、イエスの再臨とその切迫であった。それはダニエル8：14の預言の理解であった。イエスの時代の真理はまだ真理ではあった。しかし、ウィリアム・ミラーにとっては現代の真理ではなかった。

ミラーにとってルターの時代の真理は、真理であったが、しかし、ミラーにとっては現代の真理ではなかったのである。その時代のための真理を拒むということは、たとえ彼らが信仰による義認を受け入れていても、キリストを拒んだのであり、暗黒の中に残されてしまうことであった。

### これが今日の現代の真理である

「それぞれの時代において、その時代に特に適切な現代の真理を伝えるために神に用いられる者は、全て、反対にあわなければならない。ルターの時代には、現代の真理、すなわち、その時代において特別重要な真理があった」

大下168

### 現代の真理とは何であるか？

今日、現代の真理は、ルターや、ミラーの時代からさらに進んだものである。それは、天の聖所の至聖所に居ますキリストである。それは黙示録14章の第三天使の使命である。エレン・ホワイトは現代の真理は第三天使の使命であり、ただキリストだけを述べ伝えるだけでは十分でないと言っている。

「第三天使の使命——この世界に与えられた、現代の真理、第三天使の使命は、膨大な分野、天の宝を包含している。『私はもはやこれらの特別なメッセージと何の関わりもないんだ。私はキリストを述べ伝えるのだ』と誰も言い訳することは出来ない。このような重要な事件が起こっている時、今日の時代に人々に与えなければならない真理を提示しなければ、誰もキリストを説教し、イエスにある真理を提示することは出来ない。」

MS 33, 1897 The Voice in speech and Song p325, 326

預言者は第三天使の使命に何が含まれているかを告げている。第三天使はそのメッセージを天の聖所の至聖所を指して結んでいる。イエスは今そこで何をなさっているか、これが第三天使の使命なのである。それが現代の真理なのである。

「イエスは、聖所における奉仕を終わり、至聖所に入って、神の律法を納めた箱の前に立たれたときに、世界に対する第三の使命をたずさえた、もう一人の力強い天使をお送りになった。... 第三の天使は、『ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ち続ける聖徒の忍耐がある』と言って、メッセージを終わっている。彼は、この言葉を繰り返したときに、天の聖所を指さした。このメッセージを信じる全ての者の心は、至聖所に向けられる。イエスは

そこで箱の前に立って、恵みがなお与えられているすべての人々と、知らずして神の戒めを破った人々のために最後の仲保をしておられるのである」

初文 414、415

### サタンは現代の真理を破壊したがつている

「現代の真理の敵は、イエスが閉じられた聖所の門を開き、彼が1844年に開かれた至聖所の門を閉じようとしてきた。．．．今や、サタンはこの印する働きの時に当たり、あらゆる手段を用いて神の民の心を現代の真理から引き離し、彼らを迷わせようとしている」 初文 107

至聖所で起こっていることは十分に理解され、実行に移されなければならない。サタンは現代の真理を拒ませ、誤って伝え、誤って解釈させるために最善をつくすであろう。どんな夢と幻であろうが、結局はこの現代の真理の教えを拡大するものかどうか、あるいはそれに反するものかによってテストされなければならない。

現代の真理、第三天使の使命を理解するためには天の聖所の至聖所におけるイエスのお働きを理解しなければならない。

「このメッセージを信じるすべての者の心は、至聖所に向けられる。イエスはそこで箱の前に立って、恵みがなおあたえられているすべての人々と、知らずして神の戒めを破った人々のために最後の仲保をしておられるのである」

初文414、415

### それを理解することはどんなに重要か？

次に引用するE.G. ホワイトの言葉から我々がたやすく理解できることはこのことである。すなわち、聖所の第二の部屋にキリストとともに入っていかず、キリストがそこで我々のためにしておられる働きを経験しなければ、我々はサタンの働きをしていることになりサタンから偽りの力を得ることになる。

「わたしは、父なる神がみ座〔第一の部屋〕から立たれて、炎の車に乗って幕の中の至聖所〔第二の部屋〕に入られ、お座りになるのを見た。それからイエスがみ座から立ち上がられた。そして、頭をたれていた人々の大部分が、彼とともに立ち上がった。わたしは、イエスが立ち上がられた後で、無関心な群衆には、イエスから一条の光も輝かなかったのを見た。そして、彼らは全くの暗黒の中にとり残された。．．．そこでわたしは、父なる神の前に立っておられる大祭司イエスを見た。．．．イエスとともに立った人々は、至聖所のイエスを信仰をもって仰いで、「わが父よ、あなたの霊を与えてください」と祈るのであった。すると、イエスは、彼らに聖霊を注がれた。その息吹の中に、光と力、そして多くの愛と喜びと平和があった。



わたしは、御座〔第一の部屋〕の前でまだ頭をたれている人々を見ようと思っ  
てふりかえった。彼らはイエスがそこを去られたことを知らなかった。サタン  
はみ座のそばで、神の働きを行なおうとするかのように見えた。わたしは、彼  
らが、み座を見上げて、「父よ、あなたの霊をお与えください」と祈るのを見  
た。するとサタンは、彼らに汚れた力を吹きこむのであった。それには、光と  
多くの力とがあった。しかし、あたたかな愛、喜び、平和はなかった。サタン  
の目的は、神の子供たちを欺いて、彼らを引きもどし、惑わすことであつた」

初文125-127

## 二つの部屋—その違いを知る

日毎の奉仕において、大祭司は第一の部屋で犠牲の血を主の前にささげた。彼は  
その血を第一の部屋に携え、第一と第二の部屋の至聖所とを分けていた幕の前にそ  
れを注いだのである。このようにして「日毎」に罪は象徴的に贖いの日までは聖所  
に移された。「日毎」と呼ばれたのは、それは日々行なわれた儀式であつたこと  
と、またその実体はクリスチャンの「日毎」の生活経験を表わすからである。罪人  
は「日毎」に神の前に自分の罪を告白し、キリストの流された血のいさおしによる  
罪の許しを乞わなければならない。天の記録の書に記録されていた罪は許されるが、  
しかしそこに、あがないの日、「年毎」の奉仕、裁きの日まで記録として残されて  
いるのである。「日毎」に罪人は生命のパン（神の言葉の学び）にあずかり、世の  
光であるお方から、光を受けるのである。「日毎」に彼はその罪をキリストの義を  
表わす香ばしい香りと混ぜなければならない。これらすべてのことが、すべての者  
の為に死なれた神の小羊、天の真の幕屋の大祭司イエス・キリストによって罪人と  
のためになされているのである。（ヘブル6：20、7：26）。信仰によって大  
祭司と共に聖所に入ることによって、我々は永遠の破滅の状態から、我々を愛して  
おられる神と共に永遠の命へ移ることができるのである。しかしそれは「日毎」の  
経験であつて、我々の生活に何の変化も与えることなしに、許しを受ける瞬間的な、  
一時限りのことではないのである。第一の部屋の「日毎の」経験は、我々の毎日の  
生活で継続されるものであり、罪深い思いと行ないの我々が神の真のみ像へと変え  
られる経験である。神のみ言葉を学ぶこと、我々の生活における聖霊の働き、そし  
て天に上る我々の祈りは、「年毎の奉仕」、あがないの日まで継続しなければならない。

日毎の聖所の真理は単なる教理ではない。それは生きた経験なのである。すべて  
の人間は永遠の命の希望と、聖所の経験を通して罪の許しを見いださなければなら  
ない。

## 年毎の奉仕—ヨム・キパー(YOM KIPPUR)

7月の10日にあがないの日（贖罪の日）がやってきた。ユダヤ人は、今もその  
日ヨム・キパーを祝っている。それは一年間の祭り、祝い、儀式の中で最も厳肅  
で、聖なるものであつた。すべてのものがそれに参加しなければならなかつた。そ  
うしないものは、イスラエルの宿営から永久に断たれるのであつた。すべてのもの

は身を悩まし、一つでも告白しない罪はないかと心を探るのであった。それは審判の日であり、年間行事の最後の儀式であった。

その日の主な儀式は、二頭の山羊をささげることであった。それは聖所の門でなされた。どちらが主を代表しどちらがアザゼルを代表するかをくじで決めるのであった。主に属するものは、大祭司の手によって、殺され、その血はイスラエルの子らのためにあがないをするために至聖所に移されたのであった。

「この日にあなたがたのため、あなたがたを清めるために、あがないがなされ、あなたがたは主の前に、もろもろの罪が清められるからである。これはあなたがたの永久に守るべき定めであって、イスラエルの人々のもろもろの罪のために、年に一度あがないをするものである」。(レビ記16:30、34)

二つの部屋（聖所と至聖所）の真理を受け入れるということは、ただ単に知的な教理を受け入れることだけではない。それは教理、あるいは知的理解による救いではない。救いは神との直接の経験から来るのである。この経験は聖所の奉仕、すなわち、聖所と至聖所の理解を通して認識されるものである。

### はっきり理解するために

確かにサタンを礼拝しないために、我々は聖所のモチーフ（主想、主題）に示されている二つの経験の違いをはっきり理解することは欠くことのできない重要なことである。

第一の部屋の経験は第二の部屋の経験ではない。なぜなら、第二の部屋の経験はイエスが至聖所に入られた1844年以前には始まっていなかったからである。

しかし一方、第二の部屋の経験は、第一の経験も含んでいるのである。我々はあがないの日になお、日毎の犠牲がささげられたことがあったためにそのことが分かるのである。第二の部屋の経験は第一の部屋の経験に付け加えられたものである。

### 先の雨と後の雨

その相違をもっとはっきり理解するために、先の雨と後の雨のことについて考えてみよう。エレン・ホワイトの証からの引用文を研究していただきたい。

「『あなたがたは春の雨（後の雨）の時に、主に請い求めよ。主はいなずまを造り大雨を人々に賜い』『またあなたがたのために豊かに雨を降らせ、前のように、秋の雨と春の雨とを降らせられる』 東洋においては先の雨は、種まきの時に降るのである。それは種が発芽するのに必要である。豊かな雨のもとに、柔らかい芽が発芽する。季節の終わりの近くに降る後の雨は穀物を熟させ、収穫に備えるのである。主はこのような自然の働きを使って聖霊の働きを表わされた。露や雨がまず種を発芽させ、それから収穫のために熟させるように、

聖霊は、一つの段階から、次の段階へと霊的な成長の過程を推し進めるために与えられるのである。穀物が熟することは神の恵みはその魂に完成することを表わしている。聖霊の力によって道徳的なみ像が品性に完成されるのである。我々はキリストの様に全く改変されなければならない」 TM 506

先の雨と後の雨に関する上述の引用文を注意深くみて欲しい。イスラエルにおいて穀物を熟させた（完全にする）ように聖霊の後の雨が品性の完成をもたらすのである。もう一度明確にしたい。品性の完成をもたらすのは、**後の雨**であって、先の雨ではない。二つの雨は、聖所の第一の部屋と第二の部屋の経験と祝福が異なるように、明らかに異なるものである。

もし我々が第二の部屋でなく、第一の部屋の経験から後の雨が来るものと期待しているなら、我々は先の引用文に描写されていたように、サタンを仰いでいることにはならないだろうか？もしサタンが、実際は第一の部屋の経験を実行に移させていながら、今や第二の部屋の経験をしていると我々に思い込ませ、信じこませることができれば、彼は自分の目的を達成したことになる。サタンは確かに、我々は第一の部屋の経験をとおして完全になれると思込ませて、第二の部屋の働きは必要ではないのだと巧みに暗示しているとわたしは思っている。

### 生ける者のさばきと日曜休業令

後の雨はいつ降るのだろうか？それは第三天使の使命が閉じる時である。

「わたしは、第三天使の使命が終わろうとしている時を指し示された。神の民には天来の力がやどり、彼らは働きを完成して、目の前の試練の時に対する備えができていた。彼らは、後の雨、すなわち神のみ前より来る慰めを受け、生けるあかしが復活していた。最後の大いなる警告が至るところで叫ばれ、それは警告を受け入れたくない地上の住民をわき立たせ、怒らせた」初文451

これらすべてはどこに導いているだろうか？すべて同じところに導いているのである。しかし、まずここで後の雨と、天の聖所のふたつの部屋のことをさておいて、我々は重要な主題にとりかかる必要がある。

ジニーン・ソートロンは、彼女のメッセージ（新しい光）は生ける者のさばきが、すでに始まっているということである。実際それは何も新しい光ではない。わたしはそういうことに20年以上前から、何度も出くわしてきて、いつもそのことには反対してきた。その理由はこうである：

現代の真理は第三天使の使命である。（先の引用文を参照）。第三天使の使命は獣の印に関することである。（黙示録14章参照）。神の印は獣の印と対照して神の民が受ける祝福である。（マラナタ164ページの引用文を見ていただきたい）。テストは安息日遵守か日曜遵守かということに関するものである。

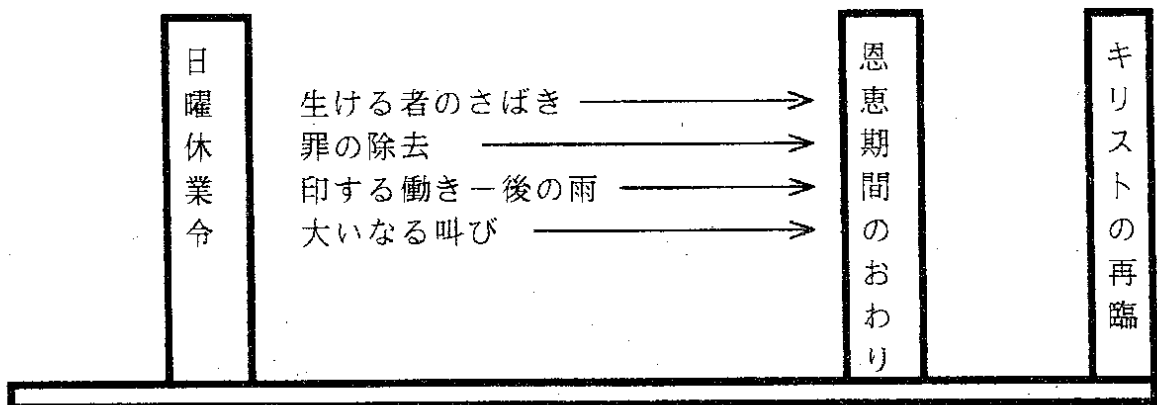


「これが神の民が印される前に経験しなければならないテストである。神の律法を守ることによって神に忠誠をつくり、偽りの安息日を受け入れることを拒むものは、主エホバの旗のもとに立ち、神の印を受けるであろう。天からの真理を拒み、日曜安息日を受け入れるものは、獣の印を受けるのである」

マラナタ164

この安息日か、日曜かというテストは、印する働きが始まる前に神の民が経験しなければならないテストである。このテストなしに彼らは神の印を受けることもできないし、受けないのである。そして、獣の印を受けて失われることもないのである。テストなしに、さばきは起こらないのである。なぜならさばき、あるいはテストは神の印か獣の印に屈するかのどちらかであるからである。故に、生ける者のさばきは、日曜休業令のテストがまだ我々にこないのです、すでに始まったとは言えないのである。

ジニー・ソートロンのアドベンチストに対する、生ける者のさばきは始まったというメッセージは正しくない。それは日曜休業令がテストとして法令化されるまでは始まらないのである。生ける者たちは日曜—偽りの安息日のテストによってさばかれるのである。



先に進む前に、3つの重要な意見について述べなければならない。それらは聖所の経験と現代の真理に関する3つの説である。それらはいつ完全にされるかということである。それらの説は3つとも一致しない。わたしはただ一つだけが第三天使の使命だと信じている。他のものはサタンに勝利を与えることになると思う。

1) 一つの意見は完全はイエスが来られるときになされると主張するものである。罪とは肉体的な不調、乱れであるから、体が変わられる時に、罪の問題が永久に解決される。(再臨時説)

2) 次の説は完全は、さばきの前に、後の雨が注がれる前に今、必要であると言う。我々は今日完全に勝利者となっていないなければならない。ただ罪許されているばかりでなく、完全に勝利者となっていないなければならない。(審判前説)

3) もう一つの考えは、今日我々はキリストの内であって、すべての知っている罪を告白し、神のみ前に立ち、完全にする後の雨の注ぎを待ち、なお我々に示されていない罪をすべて除去する時を待つ。(審判中説)

## 再臨時説

第一の説は至聖所にいますイエスを明確に拒んでいる。それは1844年からなされるイエスの特別な働きを拒む。それはただ日毎の経験のみを認め、後の雨が穀物を完成することを拒むのである。それはキリストでなくサタンに祈ることにはならないだろうか？

それはSDA以外の教会では一般的な考えであるが、SDA教会の中にさえ強力な足場を得ている。しかし、イエスが来られるときに完全にされることを待つことは、E.G. ホワイトの書き物からの明確な引用文を拒絶しない限り、受け入れることはできない。次の引用文は特にはっきりしている：

「キリストが立ち上がり、至聖所を去られる時、悩みのおきが始まり、すべての魂の運命は決定されている。その時には罪と汚れから清めるあがないの血はない。イエスが至聖所を去られる時、彼は決然と王としての権威ある語調で次のように言われる；『不義な者はさらに不義を行ない、汚れた者はさらに汚れたことを行ない、義なる者はさらに義を行ない、聖なる者はさらに聖なることを行なうままにさせよ』」 *Sings of the Times* 11-27, 1879

我々が人間の性質とキリストの性質を学ぶならば、この考え方は否定しなければならない。ここでは紙面の余裕はないが、私の書いたアンカーの記事を復習すると、この問題の理解の助けとなる。また、私の書いた「モーセと小羊の歌」は、他の主題と同様、この重要な問題も取り扱っている。

## 審判前説

この教えは1844年以来アドベンチストの間に最も広がっている。この第二の説の言わんとするところは、我々は後の雨を受ける前に、今、完全にならなければならないということである。それは後の雨を受けるときには信者の品性に何も起こらないということである。つまり、後の雨の降る前に全く完全にならなければならないと主張する。すべての知っている罪、知らない罪は聖霊によってさばきが始まる前に知るようになっていなければならない。私の意見では、彼女の資料からするとジニーン・ソートロンが取っている立場はこれだと思う。

しかしながら、エレン・ホワイトの先程の引用文からすると、後の雨の時に品性の発達があることははっきりしている。雨が穀物を完熟させたように、後の雨が信者を完成するのである。

「露や雨がまず発芽させ、それから収穫のために熟させるように、聖霊は一つの段階から次の段階へと霊的な成長の過程を遂行するために与えられる。穀物が熟することは神の恵みの働きが魂の内に完成することを表わしている。聖霊の力によって神の道徳的なみ像が完成されるのである」 TM506

## 審判中説

私の支持する説は第三番目の説である。先の雨と後の雨に関する上述の引用文はあまりにもはっきりしている。我々は罪人からクリスチャンへと改心する。先の雨を受けて、聖霊は我々の内に成長の過程を開始する。一步一步成長し、時には困難に遭遇し、或るときにはそんなに努力はいらない。或るときは苦痛とひどい屈辱を経験する。そうして成長と聖化は一生続く。

しかし、神は地上歴史の或る時に全てを終わらせる時を定めておいでになる。彼は再びおいでになる前に信者の魂の中にご自分の働きを完成なさる計画をもっておられる。彼は過去にかつて存在しなかった、またどのグループとも異なる144、000というグループをお作りになる計画をしておられる。それは額に神の印を持つ完全なグループである。

神は何か特別なことをなさる計画である。神がなさろうとしておられることは1844年以前には起こらなかったことであり、これから一度だけ起こることなのである。神はこの計画を過去になさることがおできになったが、なさらなかったのである。1844年にはおできにならなかった、また起こらなかったことなので1844年以前の経験とは全く異なった何事かである。

サタンは我々からこの真理を隠そうと望んでいる。彼は我々が実際には1844年前の経験（第一の部屋）を教えているながら、1844年後の経験（第二の部屋）を理解していると思わせたいのである。彼は1844年前の祝福は、1844年後の祝福であると信じさせたいのである。問題は、彼はこのことをすでにしてしまったのであろうかということである。次のことを覚えていただきたい。

「現代の真理の敵は、イエスが閉じられた聖所の門を開き、彼が1844年に開かれた至聖所の門を閉じようとしてきた。．．．今や、サタンはこの印する働きのときに当たり、あらゆる手段を用いて神の民の心を現代の真理から引き離し、彼らを迷わせようとしている」 初文 107

なぜなら、現代の真理の敵は閉じられた戸を開こうとし、開かれ戸を閉じようとし、クリスチャンに、特にセブンスデー・アドベンチストに第一の部屋の経験は、第二の部屋の経験と同じであると思込ませるのである。しかし、我々の敵は、我々がいまだに実際は第一の部屋にいながら、第二の部屋の経験をしていると我々に思込ませるようにしなければならない。



## 先の審判前説がこのことをしている

ジニー・ソートロンは生ける者のさばきはすでに始まっていると知っている。そうすると、もう今の時に印された個人がいることになる結論付けることができる。なぜなら、さばかれていますなら印を受けていることになるから。もし彼らが印されているなら、彼等の品性は完全にならなければならぬ。しかし、我々は裁きと印する働きは日曜休業令によるテストの時までは来ることではないことをすでに知った。

ここで実際に知っていることは何であるかという、後の雨の前に、第一の部屋の経験によって神の選ばれた者達は罪なき完全に到達できるということである。日毎の経験（奉仕）によって到達し得る最高の標準であって、年毎の奉仕は必要でないという。これこそ閉じられた戸を開き、開かれた戸を閉じることになるのではないだろうか？

しかしながら、この教えに従う者たちは、彼らは実は、いまだに第一の部屋にいるとは思っていないのである。彼らは確かに第二の部屋に思い込んでいる。第二の部屋にいると思っているのなら、それではどうして経験の面から二つに区別するのであろうか？二つの違いというのは、彼等にとっては、1844年以前は可能でなかったが、1844年以後のみ第一の部屋の経験を通して完全になることができるということである。そのようには言わないであろうが、**日毎の奉仕**によって完全になれると思っているのである。**年毎の奉仕**はただ、日毎の奉仕を通して完全になれることを可能にただけだというわけである。1844年以前はそれが可能でなかったというわけだ。

彼等は私に同意しないだろう、また確かに私の言葉使いを否定するだろうが、しかし、実際そんなことが起こっていないだろうか？完全は、知らざる罪が、後の雨の前に完全に十分に示され、許され、克服されることによってなされなければならないと信じている者たちは、二つの部屋の違い、すなわち二つの経験の違いが一体どこにあるのかを示すことに困難を感じるであろう。

彼等は後の雨が穀物を完全にすることを否定するのである。後の雨の時に霊的成長があることを否定するのである。彼等にとって後の雨はただ印された144、000が奇跡を行なうために力が与えられることだけである。

## 過去の多くのものが彼女のように信じた

この記事を読んでいるあなたも、彼女と同じように審判前説を信じているか、あるいは信じてきたかも知れない。実際、私が25年以上前にアドベンチストになった時、アドベンチストの多くの者がそれを教えていたのである。第三天使の使命が信仰による義認のメッセージとして理解されるときにのみ、我々は今起きていること、また何が問題なのかを理解することができるのである。我々はこの最後の時代に選ばれた民として、1888年のメッセージを理解することに失敗し、受け入れなかったため、今日も同じメッセージが必要なのである。

ジニー・ソートロン、また審判前説の考えを持っている者は、私の意見によると、信仰による義の側よりも、律法主義の側にいるのである。それは我々を律法主義者の方に傾ける。信仰による義認の教理を取り扱うことは紙面が許さない。それは私の本「モーセと小羊の歌」に説明されている。この問題は将来「アンカー」でも取り扱われるであろう。

私は彼女の16のテープを初めから終わりまで聞いた。それはE. G. ホワイトの書き物にそっくりである。ソートロンが言っているほとんどのことは真理である。しかし、現代の真理となると、私は彼女は間違っていると信じている。

## 大きな危険

審判前説の一つの大きな危険は、失望である。もしさばきが始まっているならば、あなたはもうすでに裁かれていて、失格とされていないと誰が言えよう。自分自身を見て、自分は神の前に十分に推薦できると思うだろうか？恐らくはそんなことはないであろう。ここに第三天使の使命（信仰による義認）の良き訪れが入ってくるのである。あなたはキリストにあって受け入れられているのである。罪を告白し、イエスの血を懇願して裁きに立つるならば、今まで罪を犯さなかったかの様に受け入れられ、後の雨を与えられるのである。あなたが先の雨を頂いた同じ条件で後の雨を頂くのである。神のみ子に対する信仰によってである。この教えが正しく理解されたなら、刈り株についての火の様に真理は全世界に広がるであろう。これが1888年の良き訪れであったのである。今日の教会が必要としているのは、この良き訪れである。イエスはすべてのことをなして下さった。「すべての用意はできました。さあ婚姻においでください」

## 間違っただけで考えないでいただきたい

行ない、業は救いに必要でない、重要でないとは考えないでいただきたい。それは救いの結果であって、救われる根拠ではない。イエスを通してなされる神の賜物である。それは「聖にして、正しく、善」である。

信仰による義認を正しく理解するとき、行ない、業は楽しいものとなり、我々の重荷とはならない。我々の喜びであり、悲しみとはならない。我々はすべての栄光を神に帰し、完全に勝利するために聖霊が送られるように神に懇願するであろう。それは神に属することなのである。■



できるのである」大下361

ユダヤ人が民として滅びたのもそのためであった。バビロンに捕囚になったときもそうであった。エルサレム滅亡の時もそうであった。

「... エルサレムは神ご自身の都であるから、滅亡する恐れはないと公言していた。彼らは権力を確保するために、偽預言者を買収して、ローマの軍隊が神殿を包囲しているときでさえ、神の救いを待つべきであると人々に言わせた。群集は至高者であられる神が敵を滅ぼすために介入なさることを、最後まで信じた」大上16。

また、次のような声を聞かないだろうか。

「今、後の雨がここかしこに降り注がれている。北米に、中米に、韓国に。さあ、今は後の雨の時だ。求めよう！」「さあ、安息日は祝典だ、セレブレーションだ。エレキ、ドラム、踊りをもって礼拝を活気づけよう、耳輪、指輪、ジーンズなどを規制するのは律法主義だ、神は慈愛の神だ、教会の標準などというくびきから解放されよう」と。

確かに、我々は後の雨の時に住んでいる。1888年の好機を失った我々は、借りた時に住んでいるのである。時が延びて、再臨信仰に疲れてしまって離れる人が出、遅延を利用してサタンは様々な教えを教会に持ち込んできた。「混乱と困惑の時」である。後の雨をもたらす使命を拒んだ先祖たちと、我々の罪を素直に認めて、教会の背教を認めない限り、後の雨は降らないであろう。

なぜ、日曜休業令の前に生けるものの裁き、後の雨、品性の完成があってはならないのだろうか？

1. 端的に言って、靈感の言葉に反するからである。明らかなみ言葉に反していながら、約束のものを我が身に受けたと主張するのは、結局は行ないによる義である。信仰による義認とは神の言葉をそのまま受け取ることだからである。サラは神の約束の子を待っても、待っても事が成らないので、ハガルをすすめた。しかし、神の約束の子はイシマエルではなかった。神のみ旨、約束、祝福を求める熱心さはよいことである。しかし、時と方法は、神にすべて任せないと、アブラハムや、モーセの失敗を犯すことになる。

① 後の雨、神の印大いなる叫びは、バチカンの世界支配が成り立ってからのことである。ダニエル11：40～45、黙17章、18章。

② 日曜休業令の後に起こるのである。その前は偽りバイバル、後の雨が降る。初文93、173、440、黙13章、14章。

2. すべて、我々は与えられているもので生きていることを覚えなければならない。



## 1. 三天使の使命

- ① 神を畏れ—人間へのへつらい、恐れ、組織崇拜から解放。神への畏敬。  
神に栄光を帰せよ—信仰による義認「人間の栄光をちりに伏させ、人のできないことを神が人のためになさる神の働き」  
死人を生かし、無から有を呼び出される神を信じる信仰、望み得ないのになおも望みつつ信じる信仰、神の約束を疑わない信仰によって神に栄光を帰す。  
神のさばきのときは来た—神の民を通して神のみ名が擁護されるときが来た。  
創造主の礼拝—礼拝での敬虔な態度、安息日の回復。
- ② バビロンは倒れた—一般諸教会は世俗と結合してバビロンとなった、墮落した教会から出よとの呼びかけ。神の民は多くバビロンにいるから。  
自己称揚、自己崇拜、自己中心からの解放。
- ③ 獣はローマ法王教。  
その像は政教（政治と宗教）一致。  
獣の刻印は日曜礼拝強制。  
まだ未来。日曜休業令は最後のテスト。それによって、神のみを恐れ、神にのみ栄光を帰さない者たちはみな獣に忠誠を表わす。人間、組織崇拜。  
獣の名はVicarius Filii Dei(ヴィカリウス、フィリ、デーわたしは神の代理人である)で、獣の数字は666である。

神の印を受ける者は、神の戒めに全く服従。完全な品性。

イエスを信じる信仰—イエスの功績に完全に依存。自分の内に依存できるものは何もない。聖霊が自分の内になされた業を意識しない、それに依存しない、それを主張しない。「ただ、あなただけが聖なるお方です」と主にのみ賛美をささげる黙15：4、上サム2：3。永遠に。

イエスの信仰、と訳した場合—印された民は人間イエスと同じように信仰によって生きる。イエスの信仰にあずかる。

## 2. 三天使の使命の使命は、民を天の至聖所に向ける。

1844年にイエスは至聖所に入られた。

3. 至聖所に入られた目的は、信者のために「最後のあがない」をするためであった。それは「特別なあがない」とも呼ばれ、1844年以前の「日ごとの奉仕」の経験とは異なる。生きて主を迎えることに備えさせる経験である。

大下140、141、初文410、413

4. 最後のあがないには次のようなことが含まれている：

① 調査審判

② 罪の除去

後の雨—神の印（品性の完成）

婚姻

神性と人性の結合

信仰による義認の十分にして完全な成就

新しい契約の完全な成就

悔い改めの終わり

死んだ義人のさばき、最後のあがないの働きは始まった。彼らはよみがえるときには全く罪なくして復活するのである。初文415、1ヨハネ3：2。生きている者たちは、生きている間に最後のあがないを経験するのである。

5. 生けるもののさばきは日曜休業令から始まる。だから最後のあがない、後の雨、神の印、完全な品性はまだである。（後に説明する）

「獣の像は恩恵期間が閉じられる前に形作られるということを主は明らかにわたしに示された。なぜならそれは神の民にとって大いなるテストとなるもので、それによって彼らの永遠の運命が決定されるのである。これは神の民が印される前に経験せねばならないテストである」 7BC976

6. 神の印、獣の刻印は日曜休業令が立ってから受ける経験である。まだ誰も受けてはいない（EV234）

7. 人は信仰によってのみ義認されるのである。信仰による義認、これが第三天使の使命そのものである。生ける者のさばきにおいても信仰による義認である。（大下216）義認が完全に十分に成就されても、完全になったと自分の内にある与えられた義に依存しない。主張しない。天国でも144、000は「あなただけが聖なるお方です」と主にのみ賛美をささげる（黙15：4）。そもそも自分の義に頼るものがあると思うことこそルシファーに罪が生じた所以であつたし、原罪の本質である。

さばきの前に聖霊、後の雨を受けて、完全になってパスするというのは、この福音の大原則に反する。結局は、行いによる義になる。その業はたとい、聖霊の業であっても。

## 1. ソートロンの夢と幻

では、これらの現代の真理にソートロンのメッセージは合致しているだろうか？ミラー兄弟が説き明かしたところによると否である。テープ、英語の資料からまとめた。

- ① 生ける者のさばきが1988年から始まっていると言っている。自分はもう裁かれて、無罪の判決を受けたと言っている。
- ② ある人はすでに獣の刻印を受けてしまっていると言っている。
- ③ ということは、ある人はもうすでに罪の除去、後の雨、神の印、完全な品性を受けている。ある人は、裁かれて永遠の運命が決定されている。日曜休業令という最後のあがないのテストが来る前に。
- ④ 獣はニューヨークにある3階建てのコンピューターであるという。それはインファナル機と呼ばれ赤外線を発する目を持っているという。それによって人の額、右の手に666を彫りつけ、入れ墨されるという。しかし、テープNO.10によると赤外線ではなく、レーザー光線ですると矛盾することを言っている。ある兄弟たちは666というコードですでに印を受けているという。

もし、獣がその巨大なコンピューターであるなら、ではその像とは何か？ある人はこのコンピューターと同じものがスイスにあって、その数字は666であり、アメリカにあるものはその像であろうと知っている人もいる。聖書は、666が獣の刻印ではなく、「獣の刻印の数字とは、人間をさすものである。そして、その数字とは666である」とはっきり言っている（黙13：18）。そのコンピューターは1260～1789年まで存在しただろうか？それは死ぬほどの傷を受けただろうか？だからそれは獣ではない。額、右の手に押される獣の刻印は、象徴的にとるべきであって、字義通りにとるべきものではない。神の印もそうである。人の目には見えない。

あるセブンスデー・アドベンチストはすでに獣の刻印を受けているだろうか？誰もそれを受けている人はいないとE. G. ホワイトは言っている（EV234）。日曜日こそ「ローマ教会の権威の印」であり、法律をもって強要するときそれに屈服することがその権威に忠誠を表わすことになり、それが獣の刻印を受けるということである（大下169、171）。そして「最後のテスト」で獣の刻印か、神の印かが決定される（大下375）。

しかも、神の印、獣の刻印を受けるというのは、ただ単に外面的に土曜日を安息日として守っているとか、日曜日を守っているとかの問題ではない。神の律法が心に印されること、すなわち神のご品性が印されること、完全な品性が与えられることである（5T475）。神の印は、大いなる悩みの時に守られる保証である。「全能の神の覆いである」初文107。後の雨によって印されるということは、死なないうで、聖所に仲保者なくして、生きて主を迎えることなのである（大下140）。この後の雨による特別な印と、先の雨の印と混同してはならない。

- ⑤ ソートロンは、サタンは背が高く、はげ頭で、頭から足まで龍の入れ墨をして、額と手に666の大きな字が刻まれているのを見せられたという。またサタン

がイエスの姿をとって現れるとき、耳に「小さなダイヤモンド」をつけるだろう。それは若者たちにそれはよいということを説得するためという。そしてヌードビーチに女性に会うために自動車で行くのを見たという。イエスの姿をしたサタン！ ここまでくると、ソートロンが現代の神の民にメッセージを送るために立てられた器かどうかを判断するのは難しいことではないだろう。

その他に聖書の事件で不注意な、間違った描写をしていることが多々ある。たとえば、簡単に；

ソートロンが夢の中である教会にいた。突然、窓が開いてつむじ風が吹いてきて、「火の舌」が熱心に祈っている者たちの上にとまった。それはちょうど「イエスと弟子たちが2階座敷にいたときに火の舌がおりてきたような力であった」という。聖霊降下のとき、イエスは天の聖所で仲保の働きの開始に当たって、その就任式に立っておられたのである。

イエスが再臨なさる時、1週間かかってこの地上に来られる。その時右手に笏を持ってこられるという。黙示録8：1の「半時間」を解したのであろう。しかし、それはイエスが聖徒たちと天に帰るときのことである。また右手には鎌を持ってこられるのである。

また、サタンは我が教会の指導者たちの前にホワイト夫人の姿をして現れるという。

礼拝で使うのにふさわしい楽器は、バイオリン、ピアノ、オルガン、チェロであるという。

野菜を冷凍するとビタミンとミネラルが破壊されるという。

デュカキスは、米国の頭として獣の刻印を強制するという。ソートロンに夢と幻が与えられたのは、1988年と思うが、1988年11月の大統領選挙で彼は敗れ、彼の経済政策は大きく失敗し、州知事も下りたのである。イギリスのサッチャー首相は神が日曜休業令を遅らせるためにその地位に神が置かれたのであるという。しかし、サッチャーも11月に辞任した。日曜休業令はまずアメリカで敷かれる。それから全世界に広まるのである。サッチャーがそんな地位にあるとは思われない。

アメリカでも数年前に、残りの民へのメッセージと言って直接にイエスから声を聞いた婦人のメッセージがテープや書き物になって配布された。2、30人出たと聞いている。ルツという婦人もそうであった。同じように、日曜休業令の切迫、生活改革、田舎に出よ、安息日の強調等．．．と。生ける者のさばきはもう始まっているとか、「田舎に出よ」と言いいながら、フロリダへ出よと付け加えたりした。

## サタンの狙い

サタンは、熱心な者たちには、あまりにも証の書と同じようなことが言われているので飛びついたものの、やがて混乱、疑い、失望で打ちのめすという罠を用いる一方、不注意、無関心な者たちには、「それ見ろ、あまり証の書に凝ると混乱する

ただだから、ご都合主義、状況倫理で行けばいい」という罫を用意している。こうして彼は右に左に罫をもうけ、彼の目的とすること、すなわちイエスの証を無効にするのである。

「しかも、それが聖書（証の書）の教えであると説かれるために、聖書（証の書）を神のみ言葉として受け入れようとしないのである。これこそ、サタンが達成しようとしている目的である。サタンは何よりも神と神のみ言葉に対する信頼感を失わせようと望んでいる」（大下270、かっこは筆者が挿入）。

そして、覚えていよう。サタンの我が民に対する最後の欺瞞は証の書を無効にすることであるということ（11SM48）。

「すべてのものを識別して良いものを守り、あらゆる種類の悪から遠ざかりなさい」1テサ5：21、22。

良いものは守らなければならない。クリスチャン標準を高く掲げることは良いことであり、それは守らなければならない。しかし、「すべての霊を信じることはしないで、それらの霊が神から出たものであるか、試しなさい。多くの偽預言者が世に出ているからである」1ヨハネ4：1

## 2. エリヤの叫びについて

この運動については、赤城山学園の津嘉山繁先生のよくまとめた資料が出されているのでぜひ読んでいただきたい。

① 「天に聖所があって、そこでキリストがとりなしているというのは嘘です。それが見えますか。拡声器から聞こえますか。見えもせず、聞こえもしないことを誰が信じることが出来ますか。キリストがとりなしをいしているというのは、ここ韓国の世界福音宣教会でやっているのです」

「キリストは結婚の仲人のような働きである。彼は父なる神と罪人の間でとりなしをしてくださるが、いったん罪人が父なる神に結びつけられたら、もはや仲人はいらぬ。神の子とせられたものは、イエス・キリストの仲保なしに直接父なる神と交わる。故にキリストはまだ父なる神を知らない世の罪人にとって必要な方である」エリヤ福音宣教会への反論より

神の子となった者たちは、父なる神に近づくのにどうして、秘書―仲保者が必要かというのである。「何の中間の代言が必要でありますか？私達は宇宙の大王、天にいます父（神）の真実の息子と娘、王子と王女らであります。私達に



は手続きも秘書室長の証明も必要がありません。最も通訳者や代言者があるというのは笑い事であります。胸を開いて慈しみあり、愛深く私達を生み育ててくださる私達の真父に逢って、その懐に躍り込み、抱かれて. . .」 永遠91 (朴氏著)

「誰も、仲保者の役をする必要はありません」 永遠93

これこそ再臨信仰の土台、大黒柱を揺すぶる教えである。「天に字義通りの聖所はない」と主張する者たちが現れるという預言の成就である。

- ② 「第4天使こそエリヤ福音宣教院の使命であり、ここ以外には真理は一つもないのでそこを出てこなければならぬ。SDAも1888年に信仰による義認を拒んだのでバビロンとなった」テープより
- ③ 聖書の言葉を歪曲し、推測すること甚だしい。たとえば；

人間は神の分身体であり、神である。詩篇2:7、これは「お産した、生んだ」という意味である。「人は神の御身より派生されて出たその方の分身体である」(永遠57~66) 詩篇2:6、50:21。人間を神と等しいものと説くのは、ヒューマニズムであり、心霊術であるといわれている。大下308。

イザヤ24:15、16「地の果て」「日の出る方」韓国から後の雨による、大いなる叫びが始まったという。日本は東だが、島国だから「地の果てではない」という。

マラキ4:5、6の預言者エリヤは朴先生だという。英語で「he」は男性、単数であるからだという。

預言者E. G. ホワイトは何と注解しているだろうか？エリヤの精神と力をもって人々を主の日に備えさせる器たち、使命者(複数)の事を言っているのである。4BC1184、初文269、国指上155、大下382、3。

「聖書についてあいまいな、変わった解釈をしたり、またキリスト教界において、宗教的信仰に関して多くの矛盾した説があったりすることは人心を混乱させて真理を見分けられないようにするための大敵サタンのしわざである。キリスト教会内にある不和、分裂は、自分の気に入った理論を裏付けるために聖書を歪曲するという一般的な風習のせいであることが非常に多い。神のみ心を知ろうとして謙遜に注意深く聖書を研究しないで、何か変わった独創的なものを発見しようとする者が多い」大下263。

憶測、曲解についての注意が続いて書かれている。

10日間のエリヤ宣教院での経験の証を聞くと、こぞって朴先生の人格、敬虔深

さ、奇跡、業をたたえている。

「6千年の長い年月、全人類が待ち焦がれた先生、全人類がそれほど待ち通した先生．．．真なる先生，．．．いかなる悪人でも変化させる能力のある先生．．．我々が行くべき道を全部歩んできた、我々の真の師」：パンフレット12。そして、信者にそう証されるのを許される朴氏の言葉も第一天使の使命に合わないのではないか？ 「エリシャがスリヤ王の秘密を全部分かったように自分も分かる。ローマ法王教の動きも、いろんな人達の会議のことも、誰がこの集まりに来るか、敵が来るのも全部分かる。父なる神と一つなのだから」 テープより

サタンは「敬虔さ」を装う1希321。「礼儀正しい、洗練された」人格者を通して働く。「サタンの手にある洗練された器」大下248、9。「最も魅惑的な様子を持って来る。彼は高尚なテーマを示すことによって理性に訴える。また彼は、うっとりさせるような光景をもって空想力を楽しませる。また愛と慈悲とを雄弁に描いて愛情を呼び起こす」大下308。エリヤの叫びの朴氏は、キリストも、ホワイト夫人も天父の愛を表わすのには不十分であったという。終わりのときに、「父の心」を完全に表わすのが彼の使命だという。

そこに行った人達は、「そこに来る人はみんな新生する、罪のない人達をみる。完全に達した人達だ。奇跡が次々起こる。あんなにすばらしい人！モーセのようだ、エリヤのようだ、キリストの様だ」と証する。

我々は、しるし、不思議、奇跡、うっとりさせる人格、愛と慈悲とを語る雄弁さに迷われるときではない。感情に頼る時でもない。「聖霊の現象」も頼れない。ただ神のみ言葉、イエスの証、現代の真理によって生きなければならないときである。「様々な教えの風が吹きまくって」いるからである。「混乱と困惑の時」だからである。「ある程度の成功を収めたからといって、それは彼らが神に召されたという確証ではない」 初文192。

「学識者の意見、科学の推論、教会会議の定めた信条、大衆の声——これらのうち、一つであれ、全部であれ、それをもって信仰上の事柄に関する根拠と見なしてはならない」大下360～361。

### 3. セブンスデー・アドベンチスト改革運動

① 彼らは、神の印は安息日であって、安息日の真理を受け入れた者は、1844年から神の印を受けていて、144,000に数えられているという。1844年以来救われる人の数は字義通り、この数丁度の144,000人であるとする。

では次の引用文はどう解するか？

「獣の像は恩恵期間が閉じられる前に形作られるということを主は明らかにわたしに示された。なぜならそれは神の民にとって大いなるテストとなるもので、それによって彼等の永遠の運命が決定されるのである。これは神の民が印される前に経験されなければならないテストである」 7BC 976

「兄弟方、あなたがたは大いなる準備の働きにおいて何をしているか。世と妥協している者は、世の型を受け、獣の刻印を受ける準備をしている。自己に頼らないで神の前で謙遜に、真理にしたがって魂を清める者は、天の型を受け、彼等の額に神の印を受ける準備をしている。法令が發布されて印が押される時、彼等の品性は永遠に清く、しみのないものとなる」 5T216

上の引用文は、いつから神の印が始まるかを間違う余地を与えないほどはっきり示しているのではないだろうか？ 獣の像が立ってから、日曜休業令の法令が立つてからの事ではないだろうか？ 144、000は獣とその像とその名とに打ち勝った人々である（大下430）。まだそのテストは来ない。

生ける者の裁きは日曜休業令から始まる。裁きにおいて罪が除去され、後の雨がふり、後の雨によって額（心）に神のご品性が印されるのである。

### なぜ生ける者のさばきは日曜休業令からとするのか？

前提1. 裁きにおいて永遠に運命が決定されるのである。

前提2. 日曜休業令は神の民の永遠の運命を決定する最後のテストである。

結論： 生ける者の裁きは日曜休業令から始まるのである。

神の印は後の雨—大いなる叫びと切り離される事件ではない。とするとダニエル 11：40～45の預言、黙17章、18章によると、バチカンの世界支配が成り立ってから起こる事件である。黙示録13章の獣の像が立ってから、「最後のテスト」の時に黙示録14章の144、000が生まれるのである。

② 彼等はSDAをバビロンとは呼ばないが、墮落し、背教したので、SDAから出よというのである。彼等は完全に一致しているという。SDAの意見の相違、混乱に耐えられないのである。

しかし、印を受ける者たちは、エルサレムの中で、その悪を嘆き悲しむ者たちである。エゼキエル9章。5T217～211。3T267。教会内で二つのグループが発展する。最後のテストの時、目に見える震いが来る。その時は教会の沈下と危機が最高の時である。5T209。「教会は今にも倒れるかのように見えるが倒

れはしない。それは存続する。その時、シオンの罪人は震われ、もみがらは尊い麦より分かれたる」 2 SM 380。 天使が分離するのである。教会の背教に泣いた、また神がみ顔を向けられるまでとことん背教していくのを見せられたホワイト夫人の書き物の中にどこにも背教していく教会から分離せよとすすめている箇所はない。むしろ、キリストの体である教会の中でキリストの苦しみにあずかる事を特権と思うようになるのである。神が教会を徹底的に震われ、ご自分の栄光を表わす「大変化」が起こるまで忍耐を発達させるのである。初文440。改革運動の人達は、過去においていつの時代の聖徒たちも教会が使命を拒み、墮落したとき分離したという引用文を盛んに用いる。確かに過去においてそうであった。しかし、最後の教会ラオデキヤにいつ、どのように、どのようなことをなさるかがはっきり示されている限り、神の業を待たなければならない。

「神が築かれた基から今さらおりのわけにはいかない。我々は今さらいかなる新しい組織にも入ることはできない。なぜなら、それは真理からの背信を意味するからである」 2 SM 390、1905

#### 4. 身近にある欺瞞

今まで取り上げてきた教えよりももっと気をつけなければならない「教理の風」が身近にある。それはもっと多くの者を堅固な土台から吹き飛ばすであろう。イスラエルの危機がまじかに迫っていた時に、預言者エレミヤの悲痛な警告は、指導者はじめ、神の民にたわごとのうように思われた。預言者の声を妨げるために、偽預言者が起こった。それらの偽預言者らは、どんなことを言ったのであろうか。ここに真の預言者と偽りの預言者を見分ける方法がある。

わたしは言った。「ああ、主なる神よ、預言者たちはこの民に向かい、『あなたがたは、つるぎを見ることはない。ききんもこない。わたしはこの所に確かな平安をあなたがたに与える』と言っています。主はわたしに言われた、「預言者らはわたしの名によって偽りの預言をしている。わたしは彼等をつかわさなかった。また彼らに命じたこともなく、話したこともない。彼らは偽りの黙示と、役に立たない占い、及び自分の心でつくりあげた欺きをあなたがたに預言しているのだ。それゆえ、わたしがつかわさないのに、わたしの名によって預言して、『つるぎとききんは、この地に来ない』と言っている。…」エレミヤ14：13～15。

「彼らはあなたがたに、むなしい望みを抱かせ、主の口から出たのでない、自分の心の黙示を語るのである。彼らは主の言葉を軽んじるものに向かって絶えず『あなたがたは平安を得る』と言い、また自分の強情な心にした

がって歩むすべての人に向かって『あなたがたに災いは来ない』と言う」

同23：16、17

個人の信徒が、主が直接に語られたとか、夢と幻を通して示されたとかいう場合、たいてい単なる「自分の心の黙示」であったことが多い。これを「思想靈感」と呼ぶ人もいる。彼らは間違ったこともいっているが、多くの正しいことを言っていることがある。そして神の民に迫る危機について警告する。しかし、エレミヤにとって最も困ったのは、「平和だ、無事だ、つるぎは来ない、ききんは来ない、確かな平安を得よ」と言う預言者であった。今日はどうであろうか。

「神の永遠の運命を決定する」日曜休業令が間近に迫っているときに、神の民の大部分が震われる事件が目前にあるのに、聞こえる声は何であろうか。

「どうして日曜休業令の事で騒ぐのか、我々は信仰によって救われている。何も特別な備えなんて必要はない。安んじていなさい。日曜休業令だなんて信者を脅かしてはならない」と聞こえてこないだろうか。エレミヤの時のように、「王は生きておられる」エレミヤ5：2、「ラッパの音に気をつけよ」と言うとき「我々は気をつけることはしない」と言う、同6：17。「主の神殿だ、主の神殿だ」「神のたてられた教会だ、組織だ」同7：4。「我々は救われた」と聞かないだろうか。同7：10。

あまりにも時が延びてしまって、サタンに有利な状況を与えてしまった。「日は延び、すべての幻はむなしくなった」ということわざが上から下に広まっている。エゼキエル12：21～28。「まだまだ時は延びる」「主人の帰りは遅いと心の中で思い」マタイ24：48。預言の霊に対する疑い、不信がはびこっている事実は誰が否めよう。

「福音は服従を要求する」患難から栄光へ70～71。「宗教の外的形式を心と生活の清めに代用することは、これらのユダヤの教師たちの時代と同様に今でもなお、改心していない人々に歓迎されている。今日も当時と同様に、偽りの霊的指導者がいて、多くの人々が、彼らの教えに熱心に耳を傾けている。キリストを信じ、神の律法を守ることによって与えられる救いの希望から、人々の心をそらそうとしている」。パウロの説いた福音は「信仰の従順（服従）」に至らせるものであった。ローマ1：5、16：25、26。それこそ三天使の使命の福音である。黙14：12。信仰と服従を分離して説くなら、神からの使者ではない。

「一般諸教会をバビロンと呼ぶことはよそう」、プロテスタントが世俗化するにつれ、「残りの民」の特殊性が薄らいでいるのではないだろうか。「ローマカトリックを獣呼ばわりしないようにしよう」こんなムードになっているのではないだろうか。第三天使の使命の警告を発しているだろうか。

「サタンはいつも、神の代わりに人間に注意を向けさせようと努力している。彼は、人々が自分で聖書を探って自分の義務を学ばないで、監督や牧師や神学者を案内者とするように導く。そうするときサタンはこれら指導者たちの心を支配することによって、大衆を意のままに感化することが



できるのである」大下361

ユダヤ人が民として滅びたのもそのためであった。バビロンに捕囚になったときもそうであった。エルサレム滅亡の時もそうであった。

「... エルサレムは神ご自身の都であるから、滅亡する恐れはないと公言していた。彼らは権力を確保するために、偽預言者を買収して、ローマの軍隊が神殿を包囲しているときでさえ、神の救いを待つべきであると人々に言わせた。群集は至高者であられる神が敵を滅ぼすために介入なさることを、最後まで信じた」大上16。

また、次のような声を聞かないだろうか。

「今、後の雨がここかしこに降り注がれている。北米に、中米に、韓国に。さあ、今は後の雨の時だ。求めよう！」「さあ、安息日は祝典だ、セレブレーションだ。エレキ、ドラム、踊りをもって礼拝を活気づけよう、耳輪、指輪、ジーンズなどを規制するのは律法主義だ、神は慈愛の神だ、教会の標準などというくびきから解放されよう」と。

確かに、我々は後の雨の時に住んでいる。1888年の好機を失った我々は、借りた時に住んでいるのである。時が延びて、再臨信仰に疲れてしまっていて離れる人が出、遅延を利用してサタンは様々な教えを教会に持ち込んできた。「混乱と困惑の時」である。後の雨をもたらす使命を拒んだ先祖たちと、我々の罪を素直に認めて、教会の背教を認めない限り、後の雨は降らないであろう。

なぜ、日曜休業令の前に生けるものの裁き、後の雨、品性の完成があってはならないのだろうか？

1. 端的に言って、靈感の言葉に反するからである。明らかなみ言葉に反しながら、約束のものを我が身に受けたと主張するのは、結局は行ないによる義である。信仰による義認とは神の言葉をそのまま受け取ることだからである。サラは神の約束の子を待っても、待っても事が成らないので、ハガルをすすめた。しかし、神の約束の子はイシマエルではなかった。神のみ旨、約束、祝福を求める熱心さはよいことである。しかし、時と方法は、神にすべて任せないと、アブラハムや、モーセの失敗を犯すことになる。

① 後の雨、神の印大いなる叫びは、バチカンの世界支配が成り立ってからのことである。ダニエル11：40～45、黙17章、18章。

② 日曜休業令の後に起こるのである。その前は偽りバイバル、後の雨が降る。初文93、173、440、黙13章、14章。

2. すべて、我々は与えられているもので生きていないことを覚えなければならない。

物質的なものも、知的なものも、霊的なものも。命も、義も、光も．．．。後の雨、神の印、完全な品性もすばらしい賜物である。ある豪華な邸宅の主人がその邸宅に入る機会を人々に提供した。そのために、一つの鍵をもらわなければならなかった。ある少女が一度はそこに入ってみたいと望んだ。その鍵を手にするには良いことをするという条件を果たさなければならなかった。少女は懸命になった。善行する度ごとに「わたしはこんな良いことをしました」と門番に報告した。それでは不十分だといわれ、またあの善行、この善行をしてきては鍵を頂けるかと思ったら断られた。もうあきらめてそのことは忘れていたある時、かわいそうな犬の鳴き声を聞いた。少女が駆け寄って見ると、罌にかかって血まみれになった、見るからにかわいそうな一匹の小犬がいた。自分の服を破って傷口を包んでやった。するといつの間にか側に来ていた門番が「さあ、鍵をあなたにさしあげよう」と少女に声をかけてびっくりさせた。これはクリスマスの山地先生のお話である。後の雨、完全な品性はわたしが、あれこれしたことによって得られるものではない。神の民が動機において「純潔」なものとなったときに、すなわち自分の業、また聖霊が自分の内になさる業さえも意識しなくなり、全く自分の無価値さと罪深さを嘆くことの頂点に達したときに（ゼカリヤ12：10、5T472～475、大下216、217）、与えられる賜物なのである。我々は至聖所に輝く十字架を仰ぎ、その経験に入るように呼びかけられている。ヨエル2章。

3. 後の雨はあまりにもすばらしい力である。キリストのご生涯、義、知恵、力が与えられることを意味する。我々は土の器であるが、神はダイナマイトのような力を与えようとなさっている。しかし、器にどんな小さなひびでも、裂け目でもあったら、天の力、圧力は非常に危険である。ソ連のチェルノブイリの原子炉の爆発で世界はその恐ろしさを知った。神は生ける者の裁きで徹底的に罪を除去して、「二度とこの世の汚れに染まないように、永久に安全」である状態にして聖霊の力で満たすのである。5T475。我々が至聖所から反映される十字架の光にてらされる体験はまだ不十分であろう。弟子たちから十字架のイエスを理解することが隠されていたように、我々も「上げられたイエス」を見失った。至聖所の律法の入っている契約の箱の上に輝く十字架の、シカイナの光を仰ぐときに、その光は我々の魂の深みまで照らし罪を一掃する。その時イエスに言われた天父の言葉が我々にも成就するであろう。「あなたは義を愛し、不法を憎まれた。それ故に神、あなたの神は、喜びの油を、あなたの友に注ぐよりも多く、あなたに注がれた」ヘブル1：9。完全な服従のあるところに完全な聖霊の満たしがある。その時の喜びは聖霊のまじり気のない喜びである。「シオンの娘よ、喜び歌え、イスラエルよ、喜び呼ばわれ。エルサレムの娘よ、心の限り喜び楽しめ」ゼパニヤ3：14。前後関係を読んでもう一度いただきたい。これは裁きの経験をしてからのことである。「あなたの神、主は．．．あなたのために喜び楽しみ、その愛によってあなたを新たにし、祭りの日のようにあなたのために喜び呼ばわれる（歌われる、英文）」同3：17。聖書に神が歌われると表現されているのはここだけだそう。

## 義人は信仰によって生きる

神の教会は外から内から猛攻撃される時に入っている。恐ろしいことはサタンの罠に気がつかない、教会の状態、危機に気付かないことである。蛙をたらいに入れて徐々に暖めると気持ちが悪くなって沸騰するまで飛び出そうともせず、ついに死ぬそうである。ラオデキヤの大半はそんな状態であると言われている。特別な準備に無関心で、神の警告に不注意なものに対してはサタンは気にしない。すでに欺かれているからである。「ラオデキヤの唯一の希望は、神の前における自らの立場と病の状態を知ることである」と言われている。しかし、気がついて、なお深く清めを求め、熱心に聖書と証の書を学び、押し寄せる暗黒に抵抗し、後の雨を求める者たちにさえもなお別な様々な罠が用意されているのである。そのような中で、ただ安全なのは、神のみ言葉だけである。聖霊の現象らしき、しるしと不思議、奇跡、魅了する人格、教会の決議、指導者、信条でもない。ただ、神のみ言葉だけである。信仰によって神のみ言葉の約束にのみ頼るものが義人と呼ばれるのである。愛する再臨信徒の皆様、世界の激変、教会で起こっている様々なことは、もう約束の成就が非常に近いことを告げているのである。神の警告は脅迫ではない。人類史上見たことのないこと、特別な聖霊の注ぎがなされて栄光のうちに勝利する時が間近に迫っているのである。これまでの聖徒たちはみな「信仰によって証されたが約束のものは受けなかった。神は私たちのためにさらに良いものをあらかじめ備えてくださっているので私たちをほかにしては彼らが全うされることはない」ヘブル11：39、40



「... 教会の清めの日は急速に近づいている。神は清い、真実な民をお持ちになるであろう。まもなく起こる大いなる震いにおいてイスラエルの力が良く分かるであろう。時のしるしは神がご自分の教会を徹底的にふるわれるときが近づいていることを示している。

大いなる混乱と困惑の時が急速に近づいている。サタンは天使の衣を着て、惑わし、出来れば、選民をも惑わすであろう。様々な教理の教えの風が吹きまくるであろう」 5T80

## バプテスマのヨハネとヘロデ

“まじかに迫る危機”

## 序論：ロトの妻を覚えなさい。

イエスが語られたクリスチャンに対する力強い預言と警告の中に、どれほど終わりの時と、ロトの時の経験が似ているかという事を我々は見ることができます。(ルカ17:28-31)。あらゆる悪、利己的快樂、物質主義、貪欲、あらゆる階級の腐敗、肉欲、姦淫、不品行、ホモ(同性愛)、獣姦等は、ロトの時代に風靡していた罪でありました。それは現代も同じであります。ちょうどロトの時のように、今日人々はこれらのことを見ても、まあすべてがいつもと同じように続いていくであろうと思わせられる欺瞞に陥っています。人類はいつかはその過ちを正し、世界はきっと良くなるであろう、警告される必要はないと。しかし、イエスは言葉を付け加えて預言された、「ロトの妻を覚えなさい」と。(ルカ17:32)。なぜイエスは彼女に焦点を当てたのでしょうか？ 当然です。なぜなら、彼女は世俗主義と物質主義によって人は愚かになり、滅ぼされる危険のあることの縮図となったからです(ルカ17:33)。彼女が不服従の故にソドムの方に顔を向けて、塩の柱となってから長年たっても、それは、二心の結果の記念であり、証明となって残っているのです。

イエスがロトの妻のことにに関して、預言的な警告の中で言述しておられることは意味深いことです。「女」は預言の中では、教会を表わしていることを我々は知っています。ロトの妻は救いと安全に非常に近づいていましたが、神の救いの恵みを体験していませんでした。後ろを振り返ってはならないという神の指示にもかかわらず、彼女はふり返ったため、この世と永遠の命を失ってしまいました(創19:17)。彼女は固く、冷たい化学製品の、生命のない塊となってしまいました。神のあわれみによって、体はソドムから出ることはできましたが、彼女の心は決してそこから離れることができませんでした。彼女は、全生涯に、喜びと意味を与えてくれたすべてを後に残したと思ったのです。ソドムに天から火が落ちた音を聞いたとき、彼女の家族の「残りの民」、神の救いに背を向けて、ふり返ったのです。注意してください。彼女は後もどりしようとしたわけではありません。ただ、神の選ばれた道に前進しようとはせず、神が禁じられたことをしたのです。彼女の経験は今日の教会に起こっていることに似ています。なぜ教会は眠っているのでしょうか？なぜ教会は靈的に死ん

で、あるいは死につつあるのでしょうか？なぜ教会はそんなに弱いのでしょうか？神は何年も前に教会を救いの道におかれたのではないのでしょうか？神は教会をソドムから、バビロンから導き出されたのではないのでしょうか？しかし、なぜ教会はそんなに固く、冷たくなって、命のないものとなり、靈的に塩の柱となってしまったのでしょうか？それは、多くの教会員が、体は教会にありながら、心はなおソドムにあるからです！我々の選ぶ娯楽、読み物、趣味、ファッション、言葉、習慣、行為、食事、人生の目標、靈性のレベル．．．すべてはそのことを示しています。多くの者にとって、セブンスデー・アドベンチストであるというのは、**確信**であるよりも**好み**でそうしているのです。共同体である教会として、また個人として、我々の体と心が完全にソドムから出て、神と協力するまでは、決して前進し、靈的に生きることはないでしょう。パウロは、ソドムに心を残しているクリスチャンのことを2テモテ3：1-5に挙げています。彼等が回れ右をして神の指示に従うまでは、教会が持っているどんな戦略も、教会プログラムも助けにならないでしょう。

### 悔い改め—バプテスマのヨハネのメッセージ

まわれ右をするということが「悔い改める」という言葉の意味です。悔い改めのメッセージが、バプテスマのヨハネの働き为主题でありました。彼の働きは人々をふり返らせ、神の方向に向けさせることでした。彼はイエスの初臨に道を備えたのです。の神最後の残りの民はイエスの再臨に道を備えるのであります。ヨハネの生活と経験は、残りの民の生活と経験に多くの点において類似するもので、深い意味を持っています。では、彼の生涯の最後の場面を考えてみましょう。

我々はバプテスマのヨハネが捕らえられ、投獄されたのは、ヘロデ王の兄弟、フィリップの妻、ヘロデヤを自分の妻とするという姦淫に対して「率直な証をたてた」からであることをよく読んでいます。彼が忠実に自分の義務を果たし、率直なメッセージを伝えたので、彼は問題にはまりこんだのであると言えるでしょう。我々は、ヘロデ王、ヘロデヤ、その娘サロメを象徴的に見ることによって、厳粛な教訓を得ることができます。

### 三重の結合

ヘロデ王は世俗の権力、ヘロデヤは法王権力、サロメは背教したエキュメニカル—プロテスタント諸教会を象徴していると考えられます。国家権力と法王権はヘロデとヘロデヤのように、決してそうあつてはならない姦淫関係に入ってしまった。こういうことは歴史を通じて幾度も繰り返されてきたし、また再び起こるのです。政教（政治と宗教）一致の結果は迫害をもたらし、すべての人にとって惨めであり、特に神の民にとってはそうであります。ヨハネの生涯の最後の細かいことについては、マルコ6：14-29の聖句に読むことができます。

ヘロデヤはヨハネの生きた証によって脅かされたように、法王教も残りの民の生きた証によって脅かされるのです（黙12：17、13：7、9-10）。ヘロデヤのように、教会はいつも自分の目的を達成するために政府の力を借りました。法王権は



残りの民を滅ぼすために再びそうするでしょう。しかし、注意していただきたい！ヨハネの首を切るために使われたのはヘロデヤの娘、サロメでした！ 日曜休業令をもたらし、迫害し、終わりのときには死の法令さえもたらず道具となるのはプロテスタントであることを 霊感に告げています。「迫害の火は、いわゆるプロテスタントと呼ばれているご都合主義者たちの許可（譲歩）を得て、ともされるのである」（7BC 975）。この真理が示されているにもかかわらず、多くのセブンスデー・アドベンチストはエキュメニカル（教会一致運動）に受け入れられようと必死になっているか、あるいはそれに参加しようとしているように見えることは驚くべきことであります。

## ぶどう酒

ヘロデヤは、ヘロデが欲望の奴隷であったので、それをもってヘロデをコントロールしていました。多くの場合、男は、その情欲と食欲で理性がコントロールされるままにさせることによって、女の操り人形となることがあります。ヘロデヤが自分の欲しいものを得たのは、彼女の姦淫関係からであったように、法王権が自分の姦淫する相手から欲しいものを得るのも同じことであります。黙示録18：3。ヘロデは自分の誕生日の祝宴で、ぶどう酒の影響によってやっかいな問題に入り込んでしまったように、バビロンもぶどう酒によって自分の目的を達成しようとするのです。「王はぶどう酒のためにもうろろとなっていた。情欲が支配し、理性が失われていた」Ⅰ希276。もしかするとヘロデの杯になみなみと酒をついだのはヘロデヤではなかったでしょうか？ 同じように、今日の政治はバビロンの誤りと欺瞞のぶどう酒で酔わされているのであります。

## 激しい試練—疑いと落胆

すべての「要人」達がヘロデを祝うために祝宴（セレブレーション）に集まっていました。同じように、今日世界は背後で米国と結びついているのを見ます。ヘロデヤとサロメの関係と同じようにカトリックとプロテスタントはますます政治に、政府の決定に、選挙に、ロビーなどに絡んでいるのです。このような野望のパーティーに夢中になっている間、ヨハネはヘロデの牢獄で苦悶の中にありました。牢屋の中で彼は、心を探り、自分の心を正し、自分とイエスの関係を確かなものにしようとしました。そこで彼はイエスが確かに約束されたお方なのかを弟子達に尋ねさせたのです（マルコ11：2-3）。それはヨハネにとって大試練のときでありました。この獄中のヨハネについて、E. G. ホワイトは次のように言っています；「何の変化もなく一週また一週と過ぎて行くにつれて、落胆と疑惑が彼の心にしのびこんだ」Ⅰ希266。なぜならサタンと自分の弟子達が疑惑と失望の言葉を彼に語ったからです。同じように、神の残りの民は以前の、自分達の同僚の信者と自称していた者たちからその信仰に対して最も悪質な攻撃を受けるであろうが、それを耐え抜かなければならないのです。また、彼等は「ヤコブの悩み」として知られている苦悩を自らも個人的に耐えなければなりません。「ヤコブの苦悶の夜は、悩みの時の神の民の経験を表わしている」（大下388）。「...しかし彼等の味わう苦悩は、真理のために受ける迫害を恐

れてのものではない。彼等は、自分達がすべての罪を悔い改めているかどうか、．．．  
ということを恐れるのである」（大下392）。「聖徒達を殺す布告が発せられた。  
そのために聖徒達は、昼も夜も救いを叫び求めた。これがヤコブの悩みの時であった」  
初文97。「それは聖徒達にとって、恐ろしい苦悩の時だった。夜も昼も、彼等は  
神に救いを求めて叫んだ。．．．彼等は、ヤコブのように、ひたすら神と格闘してい  
た」（初文457-458）。多くのものは自分達の信仰を捨てないために、また、  
獣の刻印である日曜の神聖さを拒むために投獄されるのでありましょう。そのとき、  
死の法令が出されます。バプテスマのヨハネにもそうでありました。

### 政府は宗教権力にゆだねる

彼が牢獄で祈っていたとき、宮殿で「祝典」に出席してすべての人びとは、彼を殺  
す法令を作っていたのであります。ぶどう酒に酔いしれていたヘロデはサロメに愚かな  
約束をしてしまいました（マルコ6：22-23）。選挙のときに、政治家たちは、  
支持を得るために宗教グループに、新しい法律を通過させるように、様々な約束をし  
ます。ほとんどは愚かな約束です。例えば、ブッシュ米大統領が、新しい増税策は出  
さないと約束したように。アメリカのエバンジェリカル（福音保守主義者）の右翼は、  
過去において、彼等の投票、資金、ロビーイング（議案通過運動）による支持を得な  
いで当選した大統領はほとんどいないと主張しています。教会は政府に十分に影響を  
与える力を獲得したのであります。

政府はほんとうは残りの民を殺そうとは思わないように、ヘロデはヨハネを殺そう  
とは思っていませんでした。ヘロデヤがそのように彼を追い込んだのです。「ヘロデ  
は、ヨハネを神の預言者と信じていたので、彼を自由の身にする意志が十分あった。  
だが彼は、ヘロデヤを恐れて、その意図を果たすことを遅らせた」 I 希275。ヘ  
ロデはサロメがヨハネの首を要求したときには、驚きのあまり言葉がでませんでした。  
彼はやっとヘロデヤの裏切り行為に目覚めたのであるが、時は遅すぎました。彼はお  
客の前で自分のイメージ（体面）を保ちたかったのです。約束を守らない、弱い王と  
は思われなくなかったのです。同じように、今日米国は特にそのイメージを保つた  
めにきゅうきゅうとしているのであります。「イメージ」のためにはどんな愚かな、危  
険な状況にさえも推し進めていこうとするのです。ヘロデのパーティーのときの客は、  
立ち上がって意見を述べる人もなく、ヘロデヤにうまく引っかけられたヘロデを助け  
る人もいませんでした。彼等はみんな目をそらして座っていました。

政府と教会の前で「お客」を構成する世の人々から、神の残りの民は同じことをさ  
れるでしょう。みんなヘロデのパーティーにいましたが、彼等は一人の人間の首に見  
向きもしなかったのです。彼等はヘロデヤの要求に賛同しました。なぜなら「．．．  
全地は獣に従う」からであります（黙13：3）。しかし、神がご自分の民を擁護な  
さいます。ヨハネは神の御業のために命を失いましたが、しかし、それはキリストの  
苦難にあずかった故に、最高の名誉でありました。

## 頭をねらう

ヘロデヤはヨハネの「頭」を欲しがったのです。神の敵は「頭」を狙っているし、狙うでしょう。頭は心があるところである。大争闘は心、あるいは「頭」のための戦いです。あなたの頭一心は誰が持っているのでしょうか？ キリストか、サタンか？ サタンはまた、働きの「頭」の立場にある者たち、教会の指導者を狙っています。もし、彼等がサタンの手中に陥るなら、体は直接に影響されるであります。サタンは珍奇な神学を通して、肉の罪、世俗主義、物質主義、高慢、その他の多くの戦略で指導者を狙うでしょう。指導者たちはサタンの特別なターゲットとなるから、驚くほどの圧力がかけられるでしょう。あなたのカンフェランス、教会、各部門の指導者のために祈っていただきたいのです。もし、あなたが、教会の、または家庭の指導者であるなら、自分自身のために祈ってください。サタンによって神の民（体）の一人でも、イエス（真の頭）が切り取られないように祈っていただきたいのです。

## まわれ右して救いの道に

ヨハネの最も暗黒のときは、ヘロデの牢獄で過ごしたときでした。神の残りの民にとって、神が民を救うためにおいでになるとき、最も暗い、真夜中であります（初文 460）。それはほんとに厳粛な思いであります。そして、確かに我々は厳粛な時に住んでいます。我々の周りに起こる諸事件が預言の成就を示していることを見るときに、ロトの妻のことを覚えましょう。バプテスマのヨハネのことを覚えましょう。準備をして、イエスの再臨に道を備えることは我々の特権であります。疑いや優柔不断な態度を捨てて、確信を持ちましょう。悔い改めの生活、ソドムからまわれ右をした生活を学びましょう。イエスが導いておられる、救いの道に目を注ぎましょう。サタンの熱狂的な、不注意なパーティーに参加するにはあまりにも時は短いのです。まもなく愛するイエスにお目にかかるのです！ どうぞ、マタイ 24：45-51 に記されているイエスの言葉を読み、瞑想する時をもってください。





「アメリカは1984年1月10日に完全な外交関係を確立し、  
1世紀もひそかに続けてきた求婚を完了した」  
ニュース・ウィーク JAN. 23, 1984

## 反ローマ・カトリック—2大勢力の崩壊



「歴史を動かした二人の人物」にちぎん、NO. 19, 1990  
「歴史的合意が成立—70余年ぶり外交関係樹立」琉球新報

- 21世紀を目前にして世界は激動している！  
有名な歴史家、アーノルド・トインビーは「21世紀は宗教の世紀」と言った。その実現に向かって世界はどのように動いているか？ 世界政府をねらっているものがあるとするれば、宗教統一の暁には誰がリードするか？
- 共産国の民主化、東西融合、日米共同体、ヨーロッパ共同体とバチカンの世界支配とどんな関わりがあるのか？
- バチカンの経済、金融戦略は？ なぜ、世界の経済は破綻しつつあるか？
- 中南米はカトリック化した。プロテスタント・アメリカはバチカンと「婚約」した。「ヨーロッパの共通分母はバチカン」「『欧州の家』に東西が集う礎」はバチカン。ソ連はついにバチカンに降伏。これら激変の意味は？
- ヨーロッパ共同体 (EC) は誰がもくろんだか？
- 北の王、ローマ法王教のターゲット-SDAに迫る危機！

↑

ダニエル11章40～45の預言  
に照らして見る  
現代の諸事件！

アンカー次号にご期待ください！

# 世界最大の教団 バチカンの秘密戦略

政治・経済・宗教を通じて人類の未来を支配する

「最小にして最大の国家」といわれるバチカン(ローマ教皇庁)。世界中に無数の信者を擁し、金融大本山といわれるほどの巨大な財源を持つバチカンの力は、世界政治において無視することが不可能である。バチカンの国際政治力は、日本人には想像もつがないほど強大なのだ。現在、世界中で展開されているバチカンの政治・宗教戦略は、人智を超えた秘義をそのバックボーンにしている。人類の終末を想定した恐るべき秘義とは何か？



## アドベンチスト婦人会の 十分の一献金ストライキ

デンバー（AP）—セブンスデー・アドベンチスト婦人会の指導者は教団が女性に按手札を授けることに合意するまでは十分の一献金を中止するように、そのメンバーに迫っている。

アドベンチスト婦人会の理事は、カルフォルニア、レッドランドの集会では、教団が女性の按手札を承認するまではこのような十分の一献金を、特別なエスクロー（条件の成就と共にその第三者から譲受人に引き渡すべき証書）に保留することを提案した。

デンバーポスト（新聞）は前婦人会長のフェーイ・ブリックスの言葉を次のように引用した。「我々はこのことを長い間（教会に）訴え続けた。ついに、やり通さなければならぬと思っている」

ほとんどのアドベンチストの十分の一という彼らの収入の10パーセントを教会にささげることである。去った夏の世界総会では、女性の按手札に対して反対し続けることを決議した。

多くの女性達が他の教会に通い始めたし、十分の一献金をささげることを止めたと言われている。

パシフィック、スターズ アンド ストライプス 11-15, 1990  
（一般英字新聞）

### ビリー・グラハム、法王とバチカンで会談 しかも3日間も！

RNS (Religious News Service) 報告によると、伝道者ビリー・グラハム（左）は法王ヨハネ・パウロⅡ（右）、並びにバチカン官吏らと、1月10日から13日にわたって、全世界のカトリックとエバンジェリカル（保守的キリスト教派）の関係について話し合うために会談を持った。会談を報告したグラハム氏の助手は次のように語った：「バチカンでは、ラテン・アメリカで、多くの名目的カトリックがプロテスタントに移りつつあることについて明らかに憂慮している」と。

アドベント・レビュー-1990、2-22



詳しくは「アンカー」第6号をご覧ください。

## ★ 旧世界—ヨーロッパでも日曜休業令の動き！

「旧大陸においても、新大陸においても、ローマ教会の権威だけに基づいている日曜日制度をあがめることによって、人々は法王制に忠順の意を表明するのである」大下338

## アンカー・バック ナンバー

アンカーは無料になっておりますが、バック ナンバー（旧号）の欲しいかたは注文できます。ただし、刷り足しますので実費をいただきます。各号とも150円です。

- 創刊号 1. アンカー出版にあたって  
 2. 質問コーナー：罪の取り除かれるのは再臨の前か、再臨の時か？  
 3. 自分で調べよ：証の書からの引用  
 4. ゆだねられた使命
- 2号 1. 「完全」の約束に対する不信： 教会の先駆者たちの考えからどのように変わってきたか？  
 2. 信徒からの声  
 3. 人の性質についての研究：証の書から  
 4. 古代イスラエルと現代イスラエル：  
     SDAの教会は古代イスラエルの歴史を繰り返している。わが教会は古代イスラエルよりもっと危険である。預言の霊 からの引用文集  
 5. 神の信仰：どこまでも信じ、望み、期待する神の愛。  
 6. TV—現代の怪物  
 7. 信仰から学ぶ教訓：E・J ワゴナー  
 8. 重要な事と重要でない事：
- 3号 1. 1888年—勝利か敗北か？  
 2. 信仰から学ぶ教訓：A. T. ジョーンズ  
 3. アンカー—堅固な土台—現代の問題点  
 4. 人の能力と才能—人の性質  
 5. 完全な品性に関する質問と反対
- 4号 1. キリストの性質  
 2. 信仰から学ぶ教訓：A. T. ジョーンズ  
 3. 人の創造—人の性質  
 4. レビ記に見る三天使の福音  
 5. イエスの品性の美しさを見る  
 6. 1888年のメッセージとは何か？ その1  
 7. ニュース
- 5号 1. キリストの性質  
 2. 信仰から学ぶ教訓  
 3. 真理の宝石：努力について—その1—  
 4. 瞑想  
 5. 証の書の誤訳、適訳  
 6. 最も重要な働き—親業：ホワイト夫人の晩年に言われたこと  
 7. 時兆：東欧民主化の激変、世界化の意味  
 8. 後の雨が今降っているか？

### バック ナンバー 第6号

#### 目次

最後のあがないのあがないの働き—その理解の重要性  
 聖所としての人間  
 ビリー・グラハムと法王：3日間にわたる会談  
 その意味するもの 特集  
 クリスチャンと努力  
 サムソン—SDAに何を教える？  
 バプテスマ—人数増加運動？  
 小食—過食—エジソン

## キリスト我らの義

E. J. ワゴナー・著 山口勝海・訳  
近日発行!

1888年のメッセンジャーは神に著しく用いられた。「最も尊いメッセージ」で、後の雨による大いなる叫びをもたらすはずの使命が与えられた。1888年そのものは、不思議にも残されていないが、数年後に書かれたものを通して信仰による義認のメッセージに浴することができる。

定価：600円

## NOW 今

メリー・K・マックリオド・著  
植田正志・訳

日曜休業令が立つ時を想定してある家族にどのようなことが起こったか、聖書と証の書に基づいて書かれたスリルに富んだストーリー。

定価：150円

世界エリヤ福音宣教室とは  
対  
聖書と証の書による反論

津嘉山繁 著

定価：500円

又は62円切手8枚

注文は赤城山学園にしてください。

〒 371-02 群馬県勢多郡宮城村柏倉4192

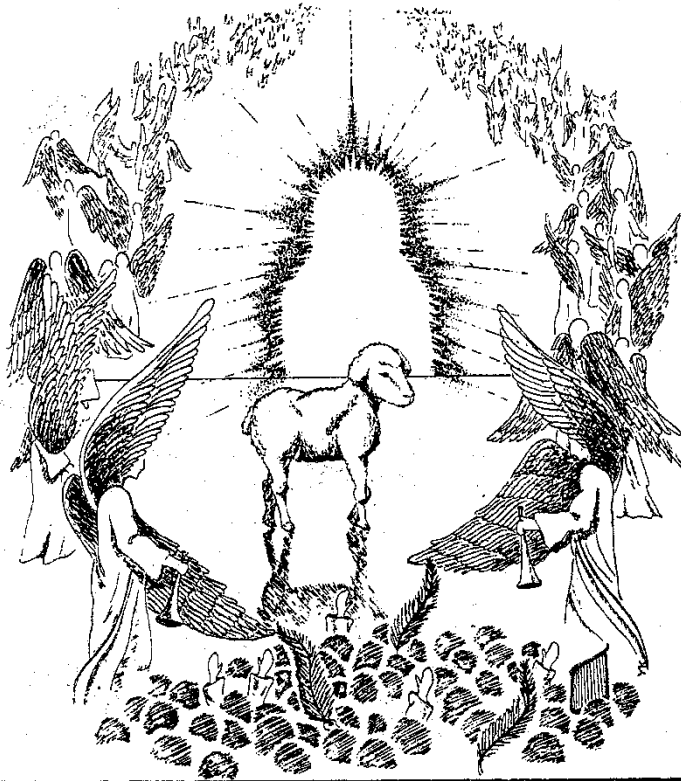
TEL 0272-83-6315

## お願い!

2年間有志の方々の献金によって支えられてきたアンカーは、無料で配布させて頂いておりますが、このままではリストが増え続け、もう一度確認し、整理する必要がでてきました。今後ともアンカーを送って欲しい方は、誠にお手数ですがその旨ご連絡ください。知人、友人にお送りになりたい方がございましたら遠慮なく申し込んでください。もし、ご連絡がなければ、配送をストップさせて頂くこととなりますので早めによりしくお願いいたします。

# モーセと小羊の歌

さばきの時のメッセージ



デヴッド・アーサー・ミラー著

金城重博訳

現代の真理を分かりやすく説いた本！1844年にイエスが至聖所に入られた目的は何なのか？「第三天使の使命は信仰による義認そのもの」と言われているがその意味を信徒に分かりやすく説明している。

- 創造から大争闘の終わりまで信仰による義認で大観する。
- キリストの性質、人の性質から完全な品性を理解する。
- 歪められた信仰。
- 裁きは永遠の福音である。
- 聖所の清めの実際の意味。
- 144,000の特別な役割。

定価： 1000円（送料とも）

申込先：京都市船井郡丹波町曾根清長60-32

電話：07718-2-1623

デイヴィド・ミラー

または；

サンライズ・ミニストリー

## ◆◆◆◆◆ お知らせ ◆◆◆◆◆

“COUNTRY LIVING”

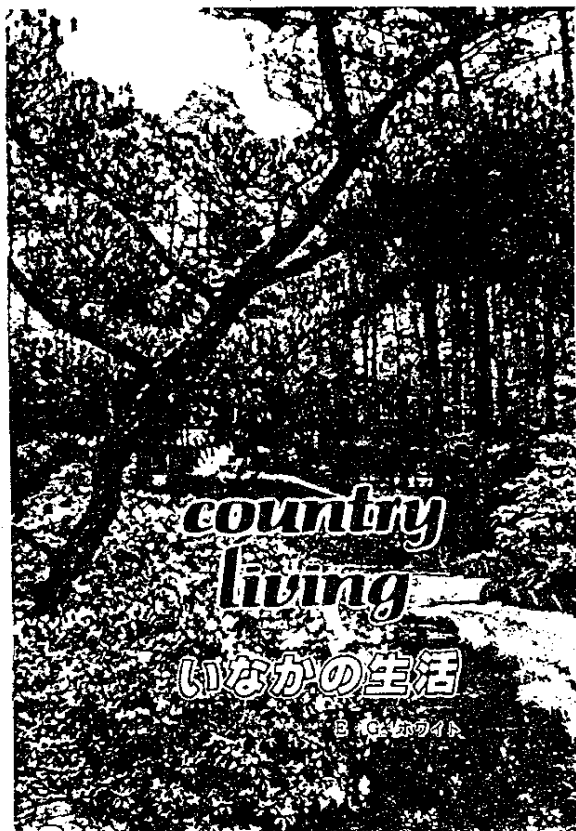
[いなかの生活]

アメリカから入荷しました。  
波平三枝子さんからのプレゼント  
です。送料は頂きますが、本は  
無料です。

「我が民は都会から離れて、田舎に  
移り、自分たちの食物を作れるよう  
にきなさいと主は幾度も幾度もわた  
しに教えられた」 CL9,10

今こその使命に留意すべき時では  
ないでしょうか？

- 聖所からの光. . . . . 750円  
 図説明. . . . . 350円  
 テープ. . . . . 1000円
  
- 仰いで生きよ. . . . . 100円



現代の真理についての書籍、テープのリストの欲しい方は  
下記の住所にご連絡ください。

- この出版物は信徒によるもので、皆様の祈りと自由献金によって続けられます。尚、資料代  
や献金などの送金には郵便振替をご利用ください。振替口座番号は

鹿児島 8-12121 サンライズミニストリー

です。

住所 〒905-04

沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471番地

サンライズ ミニストリー内 アンカー係

☎ 098056-2783, (5083 FAX)

編集人：金城重博

---

## 最新ニュース

---

1月17日現在、午後1:30 ある牧師から電話でニュースを伝えてきた。  
今、イラクで戦争が勃発している真最中だが、ブッシュ大統領は、長い間の彼の霊的アドバイザーであったビリー・グラハム氏と会談中であるとのABCのニュースがあったと。

わたしはすぐ思いました。マーク・デューワーテ先生の説教によると、ローマ法王教（ヘロデヤ）は、サロメ（プロテスタント）を通して国家権力に訴えて、法王教の計画を遂行する。去年1月10日に、ビリー・グラハム氏は法王と3日間の会談をしている。あるニュース解説者はこのイラク戦争はキリスト教とイスラム教との戦いだと言ったそうだ。キリスト教というと一般の人にとっては、今日では、ローマ・カトリックである。反ローマ・カトリックの強力な勢力はイスラム教である。「アラーの神」に誓って命をかけて戦うと宣言したフセイン大統領は、「北の王」の世界支配の手、またはエキュメニカル戦略を免れ得るであろうか。イスラム・パワーさえ制覇すれば、もう宗教的にはローマの目的は達するであろう。そして全世界の宗教が結束すれば政治、経済の支配も成る。イラクの戦争は、ローマの全世界支配の踏み石となるのであろうか。また、アメリカの「龍のようにものを言う」権威拡大の機会ともなろう。プロテスタント・アメリカは確実に黙示録13章に預言されている権力を全世界に確立しつつある。そして、ついにサロメのようにヘロデヤ（ローマ法王教）の意図することを実現するようになるのだらう。

「プロテスタントは法王制に余計な手出しをし、後援してきた。彼らは、法王教徒自身がみて驚き、見て驚き、理解しかねるような妥協と譲歩をしてきた」

大下322

「プロテスタント教会は大いなる暗黒の中にいる」大下321





1991年 1月